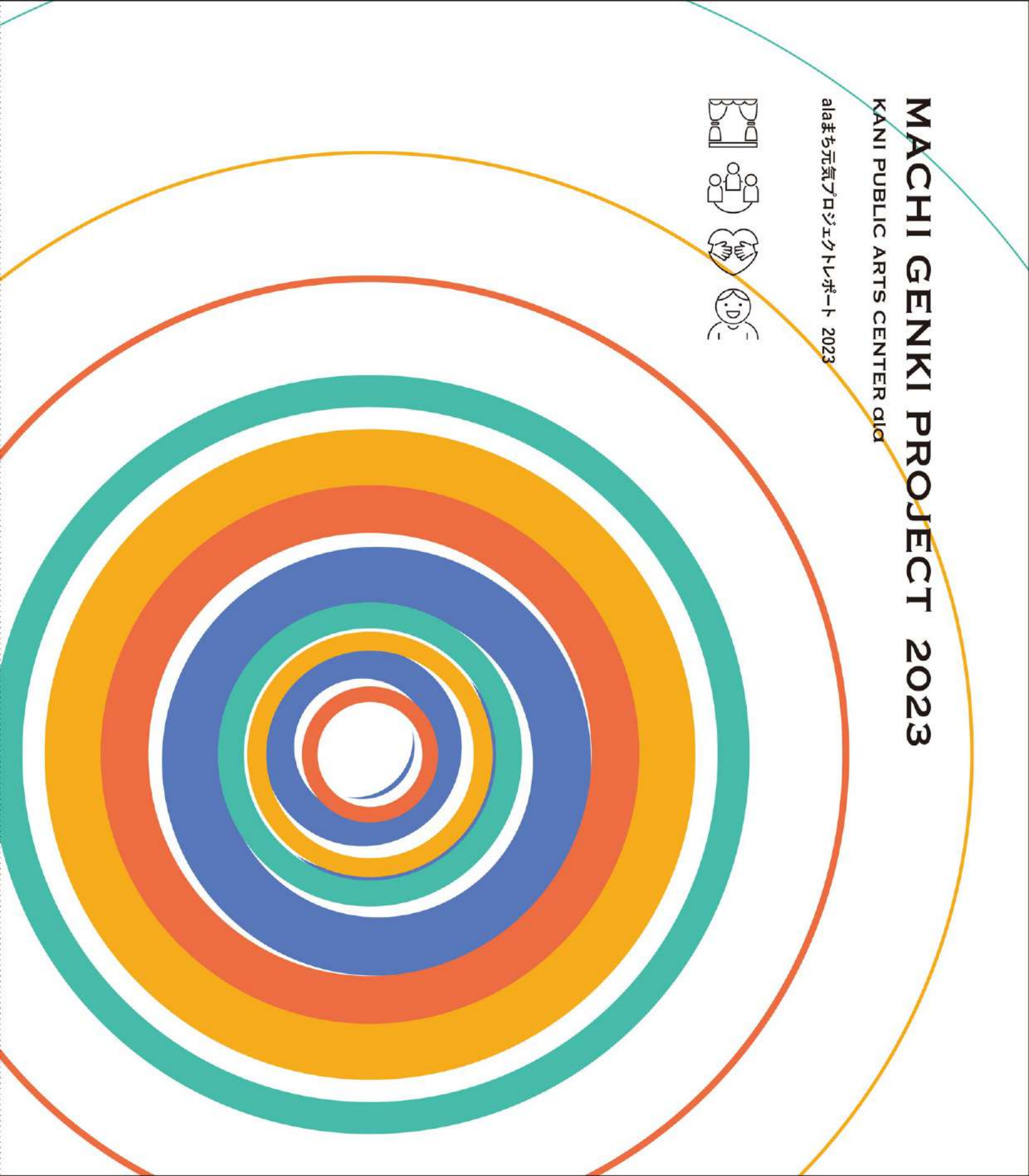
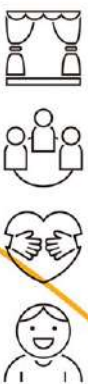


MACHI GENKI PROJECT 2023

KANI PUBLIC ARTS CENTER aia

あまち元気プロジェクト 2023





アーラが発信するコミュニティデザインのかたち
「alaまち元気プロジェクト」。

地域と連携しながら、
「生きる活力」と「コミュニティ」を創出し、
社会の健全化を目指しています。

alaまち元気プロジェクトPV



「alaまち元気プロジェクト」活動の輪を広げるために

2008年から取り組んでいる「alaまち元気プロジェクト」は15年が経過しました。その間、大型市民参加事業としてミュージカル「君といた夏」、ダンス公演「オーケストラで踊ろう」、演劇公演「MY TOWN可児」を製作し、多くの市民参加者たちと共に舞台作品を創造することで、たくさんの感動と絆が生まれました。子どもたちに対しては、コミュニケーションワークショップや学校へのアウトリーチ、高齢者に対しても孤独や孤立を防ぐためのワークショップを開催してきました。他にもまだまだたくさんの事業を行ってきたことはこのレポートでお分かりになると思います。音楽や演劇、落語などの舞台芸術を鑑賞事業として開催することが劇場の主な役割と思われるがちですが、私たちは文化芸術が人々の生きづらさや孤独・孤立の解消に大きく貢献できると考えています。その考えに基づいてこれからも活動を続けていきたいと思っています。

「まち元気」の“まち”は可児市はもちろん、この地域周辺に住む市民のことを指しています。アーラでは文化芸術の力で「生きる力」と「コミュニティを創出」し、“まち”を元気にすることを目的に活動を行っています。しかしこれらの活動がまだまだ十分に広がっているとは言えません。この広がりをもっと多くの人々にお届けするためには、アーラの職員だけでは限界があり、アーラ以外の多くの人々の賛同を得て、協働してくださる方たちを増やしていかなければなりません。

人々がつながり、支え合っていくための有効な手段である文化芸術の機能をより多くの市民に享受してもらうため、市民の中でつながりを作る人、広げる人材が必要不可欠です。2023年度は、2022年から職員と構想していた「アーラまち元気サポーター養成講座(現:アーラまち元気リンクワーカー養成講座)」「アーラまち元気そうだん室」を実践に移すことができました。今後、ますます多くの市民サポーターと協働して「まち元気」を増進させていきたいと思っています。今回はその過程として、2023年度の各種事業を報告します。

可児市文化創造センター ala 館長
竜橋 義朗

02 はじめに

「alaまち元気プロジェクト」活動の輪を広げるために
竜橋義朗 (可児市文化創造センター ala 館長)

04 What's “alaまち元気プロジェクト”?

07 2023年度 活動報告

08 〈文学座地域拠点契約事業〉
文学座俳優のキッズワークショップ / 文学座カフェ / ala劇場たいけんツアー

09 〈新日本フィル地域拠点契約事業〉
新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる
オープン・シアター・コンサート / 新日本フィル・カフェ
アーラ演劇公演市民サポーター
アーラ鑑賞モニター

10 児童・生徒のためのココロとカラダワークショップ

11 おでかけAGライブ
おでかけ落語会
アーラ未来の演奏家プロジェクト
ちびっこ鑑賞体験事業

12 大型市民参加事業 第13弾
オーケストラで踊ろう!「裁&判」

14 コレクティブ・インパクト・マップ

18 アーラ映画祭2023
劇場フロントスタッフ養成講座
森山威男ドラム道場

19 歌舞伎とおしゃべりの会
アーラ紙芝居一座
平田オリザの「対話を考える」モデル授業
まちが元気になる処方箋
常磐津教室
可児歌舞伎

20 みんなのディスコ2023

21 エイブル・アート展「動物大図鑑」

22 多文化共生プロジェクト2023

23 ココロとカラダの健康ひろば
親子de仲間づくりワークショップ
スマイリングワークショップ
みんなのピアノプロジェクト

24 私のあしながおじさんプロジェクト

25 アーラまち元気サポーター養成講座

26 アーラまち元気部
アーラまち元気そうだん室
劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ
あーとま塾2023
東日本大震災復興支援 能登半島地震被災者支援
祈りのコンサート2024

27 2023年度 連携・協賛 団体/施設/企業/個人一覧

ミッション

「芸術の殿堂」ではなく、 人々の思い出の詰まった「人間の家」へ

人は皆、「違い」があります。価値観、習慣、容姿…誰一人同じという人はいません。その「違い」が、時として格差や差別、偏見となり、争いや孤立を生み出しています。近年の社会変化ではコロナ禍によって更なる分断と孤立化が急激に加速しました。また世界では多くの命が奪われる悲慘な戦争の歴史が繰り返されています。争いや分断、孤立の絶えない社会だからこそ、私たちは文化芸術が必要なのだと信じています。なぜなら文化芸術は

「違い」から派生したあらゆる差別や偏見を昇華し、「豊かさ」となってその魅力を放つ力があるからです。

劇場は多様な価値観と出会う場であり、人と人がつながる場でもあります。芸術による感動が希望を生み、つながりが豊かさを生成します。この「豊かさ」「希望」そして活力を生み出す「つながり」を社会に醸成していくこそが、劇場で働く私たちの存在意義だと考えています。

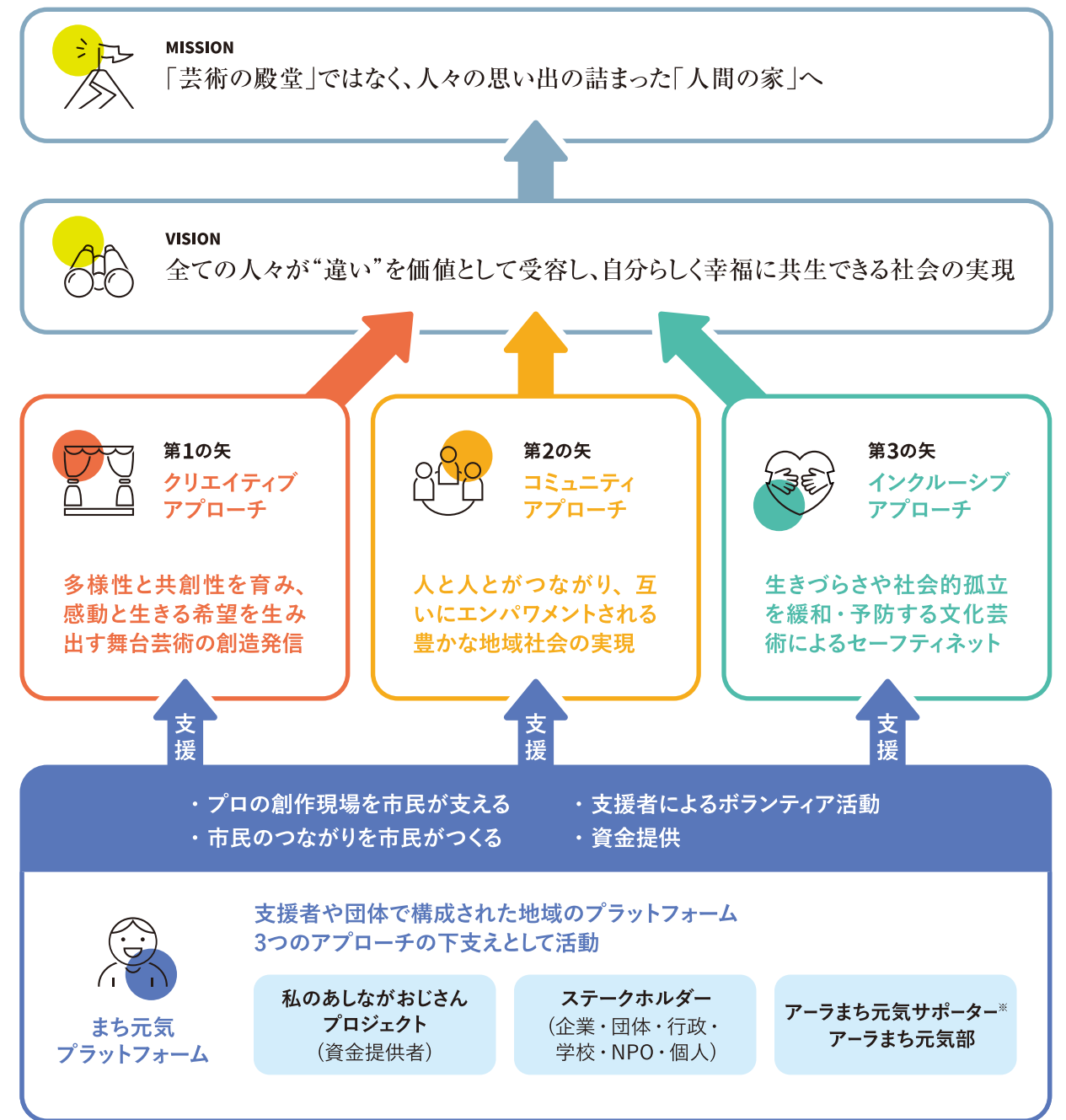
ビジョン

全ての人々が“違い”を価値として受容し、 自分らしく幸福に共生できる社会の実現

実現に向けて、3つの矢によるアプローチを推進しています。



文化芸術で生きる活力と
つながりをつくるために
3つのアプローチを
行っているんだね





2023
年度

活動
報告



文学座 地域拠点契約事業

文学座との地域拠点契約として、鑑賞事業とは違った角度から演劇と劇場の魅力に触れてもらうため、2023年度は3つの試みを実施しました。



文学座俳優の キッズワークショップ

日程 稽古:9/30、発表会:10/1
集客数 発表会32人 **参加者数** 9人(延べ18人)
講師 高橋ひろし、磯田美絵

文学座カフェ

日程 1/27 **集客数** 13人
ゲスト 相川春樹
ナビゲーター 中尾栄治(ala)

ala劇場たいけんツアー

日程 1/28(2回) **集客数** 30人
構成・演出 鈴木亜希子 **出演** 相川春樹(ほか)
協力 福井明日香(ピアノ)、アーラまち元気部

アーラは文学座と地域拠点契約を結び、舞台作品鑑賞以外のプログラムも実施しています。2023年度は「文学座俳優のキッズワークショップ」から始まりました。「<やってみたい>をかなえてみよう!」を合言葉に小学4年生から中学3年生までの子どもたちが、「俳優さんになってみる」べく、文学座俳優の高橋ひろしさん指導のもと、2日間即席の「劇団」となって、舞台に立つまでのプロセスを体験していきます。年齢も経験の有無もバラバラな子どもたちが、最後の発表会へ向けて一つの座組へまとまっていく変化には、たくさんの感動がつまっていました。次に行ったのが「文学座カフェ」です。プロの俳優さんと一緒に、お茶をしながら台本の読み合わせをするという、プチ演劇体験ができる企画です。今回は、この後の「ala劇場たいけんツアー」にも出演する、文学座の相川春樹さんがゲスト。参加者に読み方のアドバイスをしたり、他愛のないおしゃべりをしたり、とても和やかな雰囲気

で、楽しいひと時を過ごしました。最後は「ala劇場たいけんツアー」です。これは、舞台や劇場の裏側を紹介するバックステージツアーを、様々な演出を施したストーリー仕立てで行うものです。案内人は文学座の相川さん。アーラ入口から始まって、説明をしながら劇場の入口、楽屋入口、楽屋、奈落と歩き、奈落からは「迫」に乗って舞台へ移動します。参加者は小学生ですが、その保護者の方は予め客席に座り、子どもたちが舞台上に現れたところから、その様子を見守ります。参加者は舞台技術者、市民出演者の方々と協力して舞台に起きたトラブルを解決し、さあ最後は実際に舞台作品を観てもらいます、という所で登場したのが、「キッズワークショップ」に参加した子どもたちの劇団です。彼らはこの日のためにもう一度集まり、稽古をし、より大きな舞台に立ちました。今回の文学座との協働では、このような企画同士の接続を行うことで、一層充実した内容となりました。

演劇を体験し、
想像力を刺激する

新日本フィル 地域拠点契約事業

新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによる

オープン・シアター・コンサート

障がいのある方、小さなお子さまなど普段劇場に足を運んで音楽に触れることが難しい方でも安心して楽しめる、誰にでもオープンなクラシックコンサートです。

日程 6/2 **会場** ala 主劇場 **集客数** 298人
出演 新日本フィルハーモニー交響楽団メンバー 14人



新日本フィル・カフェ

新日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーによる演奏を間近で聴きながら出演者とのトークでコミュニケーションを深めました。

日程 6/3、12/24(計4回) **会場** ala 音楽ロフト **集客数** 109人
出演 新日本フィルハーモニー交響楽団
ビルマン聡平(ヴァイオリン)、山本珠里杏(ヴィオラ)、野津雄太(フルート)
岡北斗(オーボエ)、瀧本千晶(クラリネット)、河村幹子(ファゴット)、日高剛(ホルン)



アーラ演劇公演 市民サポーター

普段では経験できないプロの演劇創作の過程から公演まで、市民サポーターがスタッフ・俳優と共に創作に関われる仕組みです。

日程 9月～11月(文学座公演「五十四の瞳」
ala Collectionシリーズvol.14「フートボールの時間」、シリーズ恋文vol.13)
実施回数 38回(稽古場30回、本番8回)
参加者数 22人(延べ142人)



アーラ鑑賞モニター

公募で集まった市民に鑑賞モニターとして公演を鑑賞してもらい、今後の事業の運営に市民の意見を反映することを目的とする活動です。

日程 通年(計14公演) **会場** ala 主劇場・小劇場
実施回数 公演日他、懇談会を年3回実施
参加者数 モニター 10人(延べ109人)





児童・生徒のための ココロとカラダワークショップ

市内小学校児童対象に行うクラス単位のコミュニケーション・ワークショップ。自分を伝え相手を受け入れる力を養います。

日程	4月～7月、10月～12月
実施回数	49回
会場	市内小学校11校
参加者数	1,214人
講師	新井英夫チーム(体奏家・ダンスアーティスト) Ten seeds(劇・あそび・表現活動) アフタフ・バーバン(あそび環境Museum)
共催	可児市
協力	可児市教育委員会



「場所変えの術」でクラス全員でエジプトを表現

アーラでは、2013年度から子どもたちのコミュニケーション能力を育むための取り組みとして、アーティストを学校へ派遣しクラス単位で演劇やダンスの手法を活用した表現ワークショップを行っています。コロナ禍で人との接触が制限された2020年度、2021年度は活動を中止していましたが、2022年度から再開し、市内公立小学校11校そして学校へ行きたくても行けない児童生徒のための教室スマイリングルーム(P23で紹介)を訪問しています。

子どもたちは活動を通して自分を表現しそれを相手に伝え、相手の表現を受け取り、仲間と話し合いながら協力してひとつの表現をつくり上げたりしています。2023年度からの新しい取り組みとして、低学年向けワークショップを開始しました。講師には、「あそび」を通して表現活動を行うアフタフ・バーバンから佐藤律子さん(りっちゃん)と清水洋幸さん(しみちゃん)

を招き、市内3校の1・2年生 延べ17クラスで実施しました。

子どもたちは想像力を膨らませ、チームで相談し合いながらモノや動物になりきって表現し、ワークショップを体験した先生からは、「子どもたちの発想の豊かさに驚きました」「いきいきと発言したり意見を中心となってまとめていたりする姿に感動しました」という感想が寄せられました。

子どもたちの感想

- ・ **こころがあったかくなった。**(1年生)
- ・ **ふだんあまりなかよくないともだちとも話ができ、いっしょに楽しくあそべたし、いろいろなことができてとても楽しかったです。**(2年生)
- ・ **みんなときょうりよくすれば一人じゃできないことができるんだなと思いました。**(2年生)

自分の考えた表現や意見を友だちに伝えることができましたか？



自分のクラスがもっと好きになりましたか？



小学校低学年向け
プログラム始動！

おでかけAGライブ

シンガーソングライターのあつさんが中学校におでかけて、自身の体験談とそれに纏わるオリジナルソングで、生徒らの夢や希望を応援するライブを行いました。

日程	6/13.14、7/7	実施回数	6回
会場	中部中学校	参加者数	411人
出演	あつ(シンガーソングライター・ヤイリギターモニターアーティスト)		
協力	可児市教育委員会		



アーラ未来の演奏家プロジェクト

若手演奏家2人が可児に滞在し音楽づくり。5日間の滞在期間中、様々な音楽交流プログラムを重ね、音楽を通じたコミュニティづくりを行います。

日程	7/5～9	実施回数	16回
会場	ala館内、旭小学校、春里小学校	集客数	アーラ未来の演奏家コンサート:51人
参加者数	延べ426人(アウトリーチ、コンサート含む)		
出演	菊池武文(ヴァイオリン)、下村彩葉(ピアノ)		
コーディネーター	佐野秀典		
協力	可児市教育委員会		



おでかけ落語会

落語家が学校へ出向いて行う落語入門講座です。日本が誇る伝統話芸の面白さ奥深さを、実演を交えて体験してもらいます。

日程	6/6～9	実施回数	7回
会場	東可児中学校、中部中学校、蘇南中学校 西可児中学校、可児工業高校		
参加者数	973人	出演	桂やまと
協力	可児市教育委員会		



ちびっこ鑑賞体験事業

豊かな感性を発達させる上で大事な時期である乳幼児期の子どもたちに、ただ「観る」だけではない、想像力を刺激する「体験」となる舞台をお届けします。

日程	11/30・12/1	実施回数	2回
会場	ala レセプションホール	集客数	296人
出演	アフタフ・バーバン(平川恭子、清水洋幸、さとうりつこ)		
主催	学校法人 大日学園(かたびら幼稚園、かたびら第二幼稚園)		



大型市民参加事業 第13弾 オーケストラで踊ろう！ 「裁&判」

老若男女、経験の有無に関わらず集まった市民ダンサーが可児交響楽団の生演奏で踊る迫力のステージ。

ホチキスを避ける穴



市民ダンサーと
オーケストラによる
壮大なアンサンブル

9才から80才までの48人の市民ダンサーが「裁判」をテーマに、ドヴォルザークの交響曲第8番で踊る「オーケストラで踊ろう!裁&判」。3か月の稽古を経て、1,000人を超えるお客様に見守られ本番を終えました。コンテンポラリーダンスとクラシック音楽が融合したこの市民参加の舞台は、色々なものをお客様と舞台に立った参加者に届けてくれました。

観た方の感想

出演しているみなさんが、本当に生き生きと躍動されている姿に心動かされました。音楽と踊りから想像力をかきたてられました。

コンテンポラリーダンスの自由で創造的な表現の力、生のオーケストラが奏でる音の世界観、この2つが組み合わさることでゼロから生まれる新たな芸術。クラシック音楽を全身で感じ、ダンスで表現した3か月間は、参加者にとって一生忘れられない体験になったに違いありません。「ドヴォ8」が聴こえたら体が動いたり、頭の中にシーンや、ともに切磋琢磨したメンバーの顔が思い出されると思います。

自由に表現する楽しさを、このステキな舞台で体験できたみなさんやご家族は、一生の思い出に残ることと思います。次回は、私も参加してみたい。

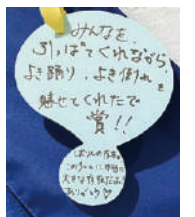
ホチキスを避ける穴



日程	稽古:12/2～3/1(計30回)	公演:3/2.3
会場	ala主劇場	集客数 1,077人
参加者数	市民ダンサー 48人、可児交響楽団66人 市民合唱隊5人、市民サポーター8人(延べ1,055人)	
振付・演出	康本雅子	指揮 古谷誠一
美術	大島広子	アシスタント 小山まさし、小倉笑
協力	可児交響楽団、可児市民第九合唱団	
後援	可児市、可児市教育委員会	

参加者の中には、稽古開始から1か月間スムーズに稽古場に入れない子、稽古を楽しめていないように見える子などいました。そんな中、市民参加事業に長年参加している方々が場の空気をやわらげてくれたり、前述の子どもたちに対して優しく声がけしてくれたことで、参加者同士でサポートする雰囲気全体に生まれました。大人の参加者たちも、日々の仕事や子育てなど忙しいなか時間をやりくりし、各々が日常の生活に負荷をかけながらもこの企画に挑戦してくれました。そして48人、無事ステージに立って、本番をやり遂げ、自分自身に挑戦した達成感と共に頑張った仲間たちとの強い絆などたくさんのもを手にしたと思います。

最後の打ち上げでは、講師の方々が参加者のみんなにメダルを首にかけてくれました。そこにはそれぞれに輝いていたところや頑張ったこと、感謝の気持ちがびっしり書いてありました。講師が決めた振りを習うのではなく、個性を見つめ、引き出しあった時間。そのことがこのメダル一つひとつに詰まっています。今でも部屋に大事に飾ってるよ、と言ってくれた方もいました。きっと参加者みなさんがそうだと思います。そのぐらい3か月という時間が尊く、それぞれの人生に意味のある時間になったと思っています。公演が終わった今でもたまに集まって近況を報告したり、お互いの頑張っている姿を観に行ったり、アーラの他の事業に参加してくれたりと関係は続いています。これからもアーラがそんな皆さんの出会いの場であり、思い出が刻まれることを願っています。



まちが元気になる処方箋



平田オリザの「対話を考える」モデル授業



私のあしながおじさんプロジェクト



親子de仲間づくりワークショップ



スマイリングワークショップ



アーラ
未来の演奏家プロジェクト



おでかけ落語会



アーラまち元気サポーター
養成講座



アーラ紙芝居一座



児童・生徒のための
ココロとカラダワークショップ



おでかけAGライブ



ちびっこ鑑賞体験事業



ココロとカラダの健康ひろば



劇場フロントスタッフ
養成講座



アーラ鑑賞モニター



あーとま塾



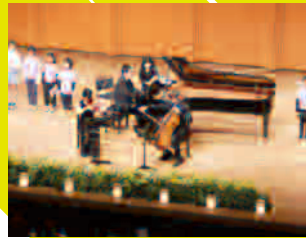
常磐津教室



歌舞伎とおしゃべりの会



祈りのコンサート



可児歌舞伎



森山威男ドラム道場



アーラ演劇公演
市民サポーター



新日本フィル・カフェ



オーケストラで踊ろう！
「裁&判」



文学座カフェ



新日本フィルハーモニー
交響楽団メンバーによる
オープン・シアター・
コンサート



エイブル・アート展



アーラ映画祭



みんなのディスコ



文学座俳優の
キッズワークショップ



ala劇場たいけんツアー



アーラ
みんなのピアノプロジェクト



アーラまち元気部



地元の
ピアノ講師
など

私のあしなが
おじさんPJ
寄付者

FMらら

お結びの森

ごちゃまぜ
アートの会

福祉施設・
団体

可児地区
更生保護
女性の会

岐阜大学・
可茂学園

市民
サポーター

(公財)
岐阜県教育
文化財団

多文化共生プロジェクト



多文化共生

- ・多様性
- ・相互理解
- ・つながり

障がい者

- ・体験
- ・個性
- ・バリアフリー

子ども

- ・体験
- ・自己肯定感
- ・自発性／協調性
- ・ひとり親家庭
- ・貧困
- ・孤立

高齢者

- ・健康寿命
- ・孤立

地域

- ・自分磨き
- ・コミュニティ
- ・被災地支援

劇場

- ・マーケティング
- ・人材育成

ala
MACHI GENKI
PROJECT 2023

COLLECTIVE
IMPACT
MAP

合計

実施回数	803回
うち稽古実施回数	52回
参加者数	延べ7,480人
集客数	5,803人

アーラ映画祭2023

映画館が無い可児において、映画を通して多様な人が交流できるコミュニティ形成を目指しています。



日程 通年(キネマ倶楽部、アーラ映画祭、名作映画鑑賞会) 実施回数 ミーティング:24回 公演:6公演(27回) 会場 ala映像シアター
集客数 1,730人 参加者数 実行委員 延べ276人 ゲスト キネマ/山根大典、春山陽子、古池弘幸、鈴木祐司(監督)、中根芳樹(カメラマン)
映画祭/早川千絵(監督)、川和田恵真(監督) 主催 アーラ映画祭実行委員会 協力 NPO法人可児市国際交流協会

バリアフリー字幕付映画上映後のゲストトーク 要約筆記も投影

劇場フロントスタッフ 養成講座

地域に根ざした劇場運営を目指し、市民ボランティアを育成し、温かいおもてなしと市民サービスの向上を図る事業です。

日程 座学編:7/23 実技編:8/5
フォローアップ研修:10/29
実施回数 3回 会場 ala音楽ロフト・主劇場
参加者数 19人
講師 星乃もと子(Theatre Management Plan Co.,Ltd. 代表)
協力 NPO法人alaクルーズ



森山威男ドラム道場

可児市在住の世界的ドラマー・森山威男氏によるドラム講座。小学生から社会人まで幅広い人が参加して切磋琢磨しながらドラムのスキルアップを目指します。

日程 通年(毎週月曜日) 実施回数 47回
会場 ala音楽ロフト ほか
参加者数 延べ245人 講師 森山威男



歌舞伎とおしゃべりの会

歌舞伎をさまざまな角度から学ぶアーラオリジナルの講座です。初心者には分かりやすく、上級者にはより深く、おしゃべり感覚で歌舞伎を学べます。

日程 9/17、11/18、12/24、2/18 実施回数 4回
会場 ala映像シアター 集客数 264人
講師 葛西聖司、木ノ下裕一
ゲスト 林家正雀、二代目市川右近
協力 可児歌舞伎



平田オリザの 「対話を考える」 モデル授業

「教育現場で活かすコミュニケーションとは？」教職員を対象に実践的なワークショップ形式で学びます。

日程 7/28 会場 alaレセプションホール 参加者数 22人
講師 平田オリザ(劇作家・演出家) 共催 可児市教育委員会



常磐津教室

市民に敷居が高く感じられがちな常磐津を気軽に学んで頂くことで邦楽の魅力を伝え、伝統音楽を後世に引き継いでいく教室。また、「おさらい会」と銘打ってプロの演奏と共に発表会を実施しています。

日程 2/12 会場 ala小劇場 集客数 87人 参加者数 11人
講師 常磐津巴瑠幸太夫 主催 可児常磐津教室巴瑠の会



アーラ紙芝居一座

演劇的要素を取り入れた遊び心溢れるダイナミックな紙芝居作品を上演するグループとして、市内の児童センターを中心に公演活動を行っています。

日程 6月～3月 実施回数 18回(うち稽古14回)
会場 中央児童センター ほか
集客数 82人 参加者数 11人
協力 中央児童センター、多治見旭ヶ丘児童センター



まちが元気になる 処方箋

「つながりの処方箋」をテーマにゲストの活動や舞台裏などの事例紹介、座談会を通して地域社会に関わる芸術の可能性に触れます。

日程 7/28 会場 ala映像シアター 集客数 43人
出演 森合音(四国こどもとおとなの医療センター・アートディレクター)、籠橋義朗(ala館長)、平田オリザ(兵庫県立大学法人芸術文化観光専門大学学長) モデレーター 半田将仁(ala)



可児歌舞伎

可児市で生まれ、可児市民が育てた可児歌舞伎。地元のアマチュア役者によって演じられる「地歌舞伎」の魅力発信をサポートしています。

日程 3/9 会場 ala小劇場 集客数 244人
参加者数 17人 主催 可児歌舞伎





みんなのディスコ2023

障がいの有無、国籍、性別、年齢問わず、様々な人が音楽やダンスで繋がり、障がい者も健常者も共生社会の豊かさを実感できる機会をつくります。

日 程 公演：6/18 関連企画「織姫☆彦星☆ジブン星!?世界に一つ自分星を作ろう!」：5/28
会 場 ala演劇・音楽・美術ロフト **参加者数** 延べ436人 **出 演** 川名洋行(MC、ライブ)、みんなのディスコDJ's(DJ)、ピエロのモリン(バルーンアーティスト) BANANA blossom & Clitolia Joroe(ドラッグクイーン)、河村あゆみ(フェイスペイント)、可茂学園、多治見西高校ダンス部、JOY☆UP、RYU
協 力 可児地区更生保護女性の会、ごちゃまぜアートの会、岐阜大学地域科学部学生、可茂学園、市民サポーター

コレクティブ・インパクトとは、特定の社会課題に対して、行政、企業、NPO、市民などがセクターを超え、互いに強みやノウハウを持ち寄って、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決を目指すアプローチのことです。

コレクティブ・インパクトの一事例として、みんなのディスコでは、障がい者が普段ダンスを踊ったり自分を表現する機会がない課題をふまえて、音楽やダンスで自分を表現でき、心と体が解放できる場をつくり、障がい者も健常者も共生社会の豊かさを実感できる機会をつくる取り組みをしています。

その中で、アールだけでは十分にそのような機会がつかれません。更生保護女性の会、ごちゃまぜアートの会、岐阜大学の

学生、可茂学園、地元のDJやドラッグクイーンなど様々な関係者が「共生社会の実現」という目的に共感して、それぞれのノウハウを持ち寄ってこの企画を実施し、共生社会を体現できる居場所ができました。

「子どもは知的の障がいがあり、初めての経験に戸惑いながらも集まった方たちの思いっきり楽しんでいる空気感を感じて自然に溶け込んでいって、キラキラした目でたのしそうにしていました!温かさで激しさとエネルギーを感じ、とても有意義な時間がすごせました」

という参加者のコメントがその場の豊かさを表している気がします。

みんなのディスコが、今後も地域の「みんなの大切な居場所」であり続けられるよう取り組んでいきます。

コレクティブ・インパクトって、楽しい!



エイブル・アート展「動物大図鑑」

障がいのある人の可能性(エイブル=able)に注目した展覧会。全国の障がいを持つアーティスト達による、魅力的なアート作品を展示しています。2023年度は、誰もが自由に絵を描くことを楽しめる関連企画も開催。

日 程 展示：7/15～7/23(計8日) 作家・中村真由美さんによる公開制作：7/15 みんなのオープンアトリエ：7/17
会 場 ala美術ロフト **集客数** 908人 **共 催** 可児市 **協 力** (公財)岐阜県教育文化財団、TASCぎふ

「わたしの描いた絵を飾っていただけてうれしいです!」

満面の笑みを浮かべてそう話す内園明日美さん。

今回、「動物大図鑑」というテーマで開催したエイブル・アート展の出展作家です。他にも4人の作家の個性あふれる動物たちが会場を彩りました。愛くるしい姿の動物や迫力ある動物など、それぞれ違う作家たちの独創的な感覚・感性が、作品の中で不思議な魅力を放ち、鑑賞者は心を奪われました。しかし、障がいのある方々にとってはその特異な感性・感覚であるがゆえに、時として生きづらさを感じていることもあります。自閉症スペクトラム障害の内園さんの「発達障害あるあるカルタ」では、そんな彼女自身が見ている世界や日常で感じる違和感をユニークな動物イラストと言葉でカルタにしたものです。

「凸のてっぺんから見る景色を、凹の底に広がってる世界を、一人でも多くの人に眺めてもらえますように。そして、わたしとみんなで踏み出すこの小さな一歩が、もっと優しい社会・未来に繋がっていきますように」

まさに彼女の強い願いが込められた言葉



には心を動かされます。違いを寛容する社会を目指すには、その違いを知ることからはじまります。

今回のエイブル・アート展は、その違いを知る入り口として、さらには違いがあるからこそ豊かであることを、それぞれの動物たちが優しく語り掛けてくれるようでした。また、関連企画としてTASCぎふに実施していただいた「みんなのオープン・アトリエ」では、80人以上の子どもから大人までが参加し、それぞれ自由に絵を描きました。親子で参加した親御さんは「子どもが手や足に絵の具を付けて全身で絵を描くことは家では絶対にできない。だから、こういう場所があるのは嬉しい」といいます。誰にも咎められることなく、絵を描くことを全身で思いっきり楽しむ自由な空間だからこそ、みんなで描いた大きな絵には、カラフルで伸びやかでエネルギッシュな作品が描かれました。それは人間の個性や感性がこのような自由な場から育まれ、豊かになっていくことをまさに提示しています。共生社会の実現とは、きっとこのような場所をみんなで地域に沢山作っていくことなのかもしれません。

もっと、優しい、未来へ



わたしたちの
見え
ない
境界線を、
想像して、見る

多文化共生 プロジェクト2023

文化芸術を介したつながりで、異なる文化や背景を持つ人々が交流し、多様性を尊重し、それを豊かさとして受け入れ、より寛容な社会を築くプロジェクトです。

日程 稽古:6/18～8/12 公演「BORDER」:8/20、8/26 「何でも相談会」ステージ出演:2/4 実施回数 13回(うち稽古7回)
会場 土田地区センター、ala 演劇練習室・レセプションホール 集客数 127人 参加者数 16人(延べ182人) 講師 作・演出:鹿目由紀
振付:堀江善弘、演出助手:カズ祥 アドバイザー 住吉エリオ、山田久子 協力 多文化演劇ユニットMICH、NPO法人可児市国際交流協会

外国籍市民の人口割合が約8%と高い可児市。様々なルーツを持つ人たちのために劇場が出来ることは何かと考えた末に出た答えの一つが「一緒に演劇をやること」です。単純な優劣を付与することなく多様な価値観、文化や身体の違いを内包でき、互いの確かなコミュニケーション無くしては成立しない「演劇」、舞台作品を共に創造することは、つまり「共生」そのものにダイレクトに繋がっていきます。

2023年度は、前年に引き続きドキュメンタリー演劇作品『BORDER』の公演を行いました。参加者(出演者、非出演のサポーター)から実体験を取材し、それを基に作品を創る「ドキュメンタリー演劇」は、創る側の想いが込めやすく、観る側にも伝わりやすい手法です。実際に参加・出演した方の中には、自分の職場での苦境を訴え、それを舞台化することで気持ちが軽くなり、稽古場では自分が受け入れられ、開放され

る感覚を味わえたと言う人もいました。そんな舞台を観て、とても深い共感が得られた、改めて多文化共生の状況がよく分かったという人もいます。もっと多くの人たちに知ってもらいたいというご意見も頂いていたので、今回はアーラでの公演以外の活動機会も積極的に増やしていきました。先ず『BORDER』の公演は、外国籍市民が比較的多く住む可児市土田地区の会場でも行い、公演終了後には観客を交えた交流会も実施し、別イベントへのステージ出演や、参加者同士の交流を深めるためのバーベキューイベントなども行いました。また「多文化共生」のキーワードは近年注目が集まってきていることもあり、事例発表などで他県の催しに呼ばれたり、メディアの取材・露出も増えてきました。我々が目指す、豊かな多様性を持った共生社会へ少しでも近づくために、少しずつこのプロジェクトを広めていきたいと思っています。

ココロとカラダの 健康ひろば

60代以上を対象としたコミュニケーション・ワークショップ。継続的な参加によって、楽しみながら健康維持と新たなコミュニティづくり。

日程 4月～7月、10月～12月 実施回数 20回
会場 ala レセプションホール 参加者数 延べ315人
講師 新井英夫チーム(体奏家・ダンスアーティスト)
Ten seeds(劇・あそび・表現活動)
中ムラサトコ(ゲスト講師・ヴォイスパフォーマー)



スマイリングワークショップ

学校へ行きたくても行けない児童・生徒が通うスマイリングルームでのコミュニケーション・ワークショップ。

日程 4月～7月、10月～12月 実施回数 10回
会場 可児市総合会館 ほか 参加者数 延べ127人
講師 新井英夫チーム(体奏家・ダンスアーティスト)
Ten seeds(劇・あそび・表現活動)
中ムラサトコ(ゲスト講師・ヴォイスパフォーマー)
共催 可児市 協力 可児市教育委員会



親子de仲間づくり ワークショップ

乳幼児の親子を対象としたコミュニケーション・ワークショップ。想像力や感受性を育みながら、親子で仲間づくり。

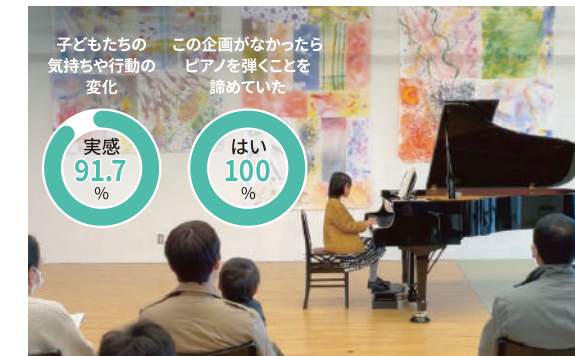
日程 4月～7月、10月～12月 実施回数 22回
会場 ala レセプションホール 参加者数 延べ485人
講師 新井英夫チーム(体奏家・ダンスアーティスト)
Ten seeds(劇・あそび・表現活動)
中ムラサトコ(ゲスト講師・ヴォイスパフォーマー)



みんなのピアノプロジェクト

ピアノを弾けるようになりたい気持ちがありながら、家庭環境等の理由で習うことが困難な子どもたちに対し、地域の力で環境を整えるプロジェクトです。

日程 5月～3月(月・金・金の指定日) 発表会:3/9
実施回数 325回 会場 ala演劇練習室・美術ロフト
集客数 発表会30人 参加者数 22人(延べ384人)
講師 有志で集まった地域のピアノ講師および音大生
協力 「私のあしながおじさんプロジェクト」寄付者



私のあしながおじさんプロジェクト

未来を担う中高生のしなやかな心に、音楽や演劇などの舞台芸術の「感動」を有志の皆さんの寄付により届けるプロジェクト。また経済的支援を受けている家庭対象のFor Family制度も実施。

日 程	通年(計15公演対象)
会 場	ala 主劇場・小劇場
鑑賞者数	延べ234人(うちFor Family64人)
協 賛	21企業・団体・個人から 計1,410,000円(一覧はP27掲載)
協 力	可児市福祉支援課 可児市教育委員会

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、前年度と比較して2倍近い児童・生徒の皆さんを公演に招待することができました。そして3年ぶりに、「あしながおじさん」から中高生たちが直接チケットを受け取る『チケット贈呈式』を実施することができました。芸術鑑賞の機会を提供してくれる「あしながおじさん」たちへ、いつもはお礼のお手紙をお渡ししますが、相手の顔を見て感謝の思いを伝える、良い機会になったのではないのでしょうか。また、若い鑑賞者が少ない傾向にあった演劇公演(ala Collectionシリーズ)については、演劇部に所属する高校生たちに積極的に声掛けをし、演劇に関わる多くの地元高校生たちが、プロが作り上げた公演を鑑賞することができました。あしながおじさんへのお礼のお手紙には、自分の演劇に対する思いや、これからの展望が、熱のこもった言葉で書かれていました。

プロの方々の演劇を観る機会がなかなかなく、演技力に圧倒されました。また、今演劇を作る時に迷っている部分があったので、とても参考になったし、目標ができました。これを励みにこれからも頑張ります。

このプロジェクトは2011年度に開始し、これまでに約2,000人の子どもたちにチケットをプレゼントしてきました。なかには中高6年間に渡ってこの制度を利用し、公演を鑑賞してきた子もいます。今年はそんなリピーターの子どものたちの「感謝」の思いが綴られた手紙が多くみられました。

私は中学生の時から何度もこのプロジェクトで鑑賞をしています。どんな公演でも、アールで鑑賞をした後はいろいろと感慨深くなります。高校を卒業したあともアールへ足を運び続けたいです。そしてこの素敵なプロジェクトをずっと続けて欲しいです。ありがとうございました！

これからも多くの中高生たちが、このプロジェクトを通して様々な芸術に触れ、豊かな心を育む機会を得られるよう、活動していきます。

アールまち元気サポーター養成講座

「社会的処方」におけるリンクワーカーの役割について概念や先進事例を学び、自分たちで企画し実践する講座です。

日 程	6月～3月	実施回数	14回	企 画	「集まれ! alaまち元気あそび隊」:11/18	会 場	ala館内・水と緑の広場
講 師	栗田康弘・澤村潤(ala)、鳥羽郁子(岐阜県美術館)、田沢千草(ハブラポ)、唐川恵美子(ほっちのロッジ)、森合音(四国こどもおとなの医療センター) 守本陽一(ケアと暮らしの編集社)						
参加者数	10人(延べ101人)		協 力	アール紙芝居一座、アールまち元気部			

今の時代、少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの変化などによって、地域とのつながりが少なくなり、「社会的孤立」に陥るといった課題が増えています。そんな今だからこそアールが力を入れているのが『まち元気サポーター』の養成です。まち元気サポーターとは、コミュニティ・プログラムや文化芸術と地域の人々の間を結ぶ「まちのリンクワーカー(つなぎ役・お世話焼きさん)」のことです。可児市には想いをもち、地域の課題に取り組む人がたくさんいます。個人で活動している方たちを横につなぐ役割、そして地域で生きづらさを感じている人にとって、必要な人や活動をつなぐのがまち元気サポーターのみなさんです。普段はまちのリンクワーカーとして活動をしながら、時には力を合わせて地域の人たちがつながる仕組みを生み出そうと今年から活動を始めました。その活動の一つとして11月に「集まれ! alaまち元気あそび隊」を開催しました。まち元気

部の中高生ボランティアや、地域の団体と一緒に、「あそび」をテーマにそれぞれが得意なことでもいろんな「あそび」を用意しました。当日のサポーターの声をご紹介します。

参加してくれた子どもたちや親子連れ、そしてお手伝いしてくれた中高生のみんなと大人たち。あの場にいたみんなが活き活きして面白がって楽しんでいて空間が心地よかったです。地域が求めていることを探り、アールやアートと地域を繋げる次の仕掛けに繋がっていきたいと思います。 By ゆっきー

まち元気サポーターの声



子どもの自由さや、やり遂げる力を見せてもらいました。見本で作った楽器とは全く関係なく、オリジナル楽器を作ってくれた子たちがいて、そういう展開が嬉しかったです。 By のん

想いを抱えている人たちがつながっていけば、可児市はもっといいまちになっていく。今後もまち元気サポーターの皆さんが、地域のリンクワーカーとして活躍していくことを期待しています。

地元企業・団体・個人が子ども達の舞台芸術鑑賞機会を応援！

アーラまち元気部

学校の卒をこえてアーラに集まった中高生たちが、地域のさまざまな人たちと交流しながら、まちを元気にしていく部活動です。

日 程 5月～3月 **実施回数** 44回
会 場 ala館内、FMらら、マーノ、ミライブ、下恵土地区センター
参加者数 17人(延べ176人) **協 力** ごちゃまぜアートの会
FMらら(FMラインウェーブ株式会社)、NPO法人alaクルーズ
お結びの森、新井英夫、板坂記代子
令和さくら高等学院、アーラまち元気サポーター
「私のあしながおじさんプロジェクト」寄付者



まち元気プラットフォーム・その他

劇場に関わる人のためのアーツマーケティング・ゼミ

あーとま塾2023

劇場法を基にアーラが行ってきた社会包摂型劇場運営を題材に、「社会機関としての劇場」を考えていく合宿形式の研修ゼミです。

日 程 事前オンラインレクチャー：9/1 ゼミ：9/7.8、2/7.8
実施回数 3回(うちオンライン1回)
会 場 ala音楽ロフト・美術ロフト **参加者数** 延べ83人
講 師 衛紀生(塾長)
源由理子(明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授)
大澤寅雄((同)文化 commons 研究所代表)
ゲスト 落合千華((一社) CoAr 代表理事)
協 力 アーラまち元気サポーター
アーラまち元気プロジェクト参加者
ごちゃまぜアートの会、NPO法人可児市国際交流協会



アーラまち元気そうだん室

劇場におけるチケットインフォメーション、貸館受付といった市民とのコンタクトポイントの「第3の窓口」として開始しました。

日 程 相談：水曜日の予約が入った日
情報交換会(ラウンドテーブル)：5/29、7/24、9/25、11/27
実施回数 20回(相談16回、ラウンドテーブル4回)
会 場 ala 創造スタッフ室 ほか
参加者数 相談：16人 ラウンドテーブル：6人(延べ18人)
相談員 栗田康弘・松浦正和(ala)
協 力 可児市教育委員会、NPO法人可児市国際交流協会
NPO法人可児市NPO協会、NPO法人alaクルーズ
社会福祉法人可児市社会福祉協議会、令和さくら高等学院



東日本大震災復興支援 能登半島地震被災者支援

祈りのコンサート2024

～被災地へ届け、私たちは忘れない～

東日本大震災と能登半島地震の被災者の心の復興のために“アーラとしてできることは何か”を考え、地域の企業や市民の協力を得て、収益や寄付金を被災者支援団体や文化団体などへ寄託するプロジェクトです。

日 程 3/10 **会 場** ala 主劇場 **集客数** 382人
出演 居福健太郎(ピアノ)、三浦明子(ヴァイオリン)
サミュエル・エリクソン(チェロ)、佐野秀典(ナビゲーター)
市民ミュージカル「君といた夏」出演者21人(合唱)
協 賛 9企業・団体(一覧はP27掲載)
寄託先 傾聴ボランティア「こころのもり」
気仙地域傾聴ボランティア「こもれびの会」
(公社)宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター
能登演劇堂、劇・あそび・表現活動 Ten seeds



2023年度実績

連携している団体・施設・企業・個人

可児市、可児市教育委員会、市内小中学校、NPO法人alaクルーズ
可児市教育研究所・スマイリングルーム、NPO法人可児市国際交流協会
社会福祉法人可児市社会福祉協議会、NPO法人可児市NPO協会
可児地区更生保護女性の会、可児市土田自治連合会、中央児童センター
多治見旭ヶ丘児童センター、公益財団法人岐阜県教育文化財団
TASCぎふ、岐阜大学、可茂学園、令和さくら高等学院
FMラインウェーブ株式会社、可児交響楽団、可児市民第九合唱団
ごちゃまぜアートの会、お結びの森、多文化演劇ユニットMICH
可児歌舞伎、可児常磐津教室 巴瑠の会、アーラ映画祭実行委員会
アーラ紙芝居一座、アーラまち元気部、アーラ演劇公演市民サポーター
みんなのディスコ市民サポーター、地域のピアノ講師および音大生
「私のあしながおじさんプロジェクト」寄付者(順不同・敬称略)

私のあしながおじさんプロジェクト／
協賛企業・個人

市原産業株式会社、可児金融協会、可児ライオンズクラブ
株式会社新和建設美濃加茂支店、株式会社大幸住宅可児工房
株式会社トイ・ファーム、株式会社ワNZ・プランニング、カヤバ株式会社
信和工業株式会社、中日総合防災株式会社、東濃信用金庫
東濃建物管理株式会社、長江興産株式会社、丸茂電機株式会社
丸理印刷株式会社、有限会社亀谷電気商会
ヤマハサウンドシステム株式会社名古屋営業所、匿名3件
株式会社 三菱 UFJ銀行(協力)(順不同・敬称略)

東日本大震災復興支援
能登半島地震被災者支援
祈りのコンサート／
協賛企業・団体

株式会社カラビナ、株式会社松栄堂楽器可児店、株式会社トイ・ファーム
株式会社ワNZ・プランニング、岐阜県舞台設備管理事業協同組合
じゃぱんSANDWICH、ハーモニーワークス、ホテルルートイン可児
丸理印刷株式会社(順不同・敬称略)

KANI PUBLIC ARTS CENTER αα
MACHI GENKI PROJECT 2023

ααまち元気プロジェクトレポート 2023

発行日	令和6年8月
発行	公益財団法人可児市文化芸術振興財団 〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
デザイン	ソライロデザイン
印刷・製本	株式会社 日美印刷



可児市文化創造センター